

環境技術研究所ニュース：

環境技術研究所が市内の海蔵川とその上流の竹谷川、および十四川を調査

2020年6月24日（水）の午前中に武本研究所長と高橋研究員らの環境技術研究所が海蔵川の本支流と上流の竹谷川・大口川を調査しました。この調査は環境技術研究所の調査研究の一環として行われています。午前中は快晴で、気温も温かくよい調査日和でした。6月25日（木）には午前中に小雨のなか十四川を測定し、調査が終わる頃には、くもりになりました。

海蔵川は7、8年ほど前から下流と中流で継続調査しており、5年前調査依頼があった上流側の本流と竹谷川・大口川も追加して行われています。海蔵川上流菰野町の大口川にある養豚場や市の県地区の竹谷川上流の養豚場からの排水が本水系の汚染を起こしていることから、県地区市民センターの安田館長や「竹谷川の蛍と桜を守る会」の下村氏・清水コーディネーターらと共同で調査実施中です。この地区では、高濃度の畜産排水有機汚濁のため、蛍が減少したり、稲作が被害を受け、対策が急がれています。窒素分は依然としてやや高濃度でした。しかし、いつも汚染がひどい大口川では、かなりきれいになっていました。この大口川のある菰野町では、3億円を投じて大口川支流の養豚場付近側溝を改修する工事が完了しました。またこの川に排水を流している養豚場も県の補助も含めて数千万円をかけて排水処理工事に着手したそうで、環境改善の動きが活発化しています。われわれの水質調査も役立つそうです。

富田地区の十四川は、10年ほど前から富田地区市民センターや「十四川を守る会」と共同で調査しています。今回は初夏の梅雨期ですが、中下流部の北鶴町からは朝明川から導水をしています。今回はしていませんでした。梅雨期のため、中下流の流量はやや多めでした。中流部のスーパーサンシ付近は、流量は少な目で、かつ家庭・飲食店や田畑からの排水流出があり有機汚濁が認められ藻類が川床に繁茂し、窒素分やCOD（化学的酸素要求量）値、CL（塩化物イオン）値はやや高めでした。



海蔵川支流の部田川上流部：東芝半導体工場からの排水口付近



竹谷川支流の用水路で守る会の皆さんと採水作業



大口川上流支流の養豚場付近の用水路にて



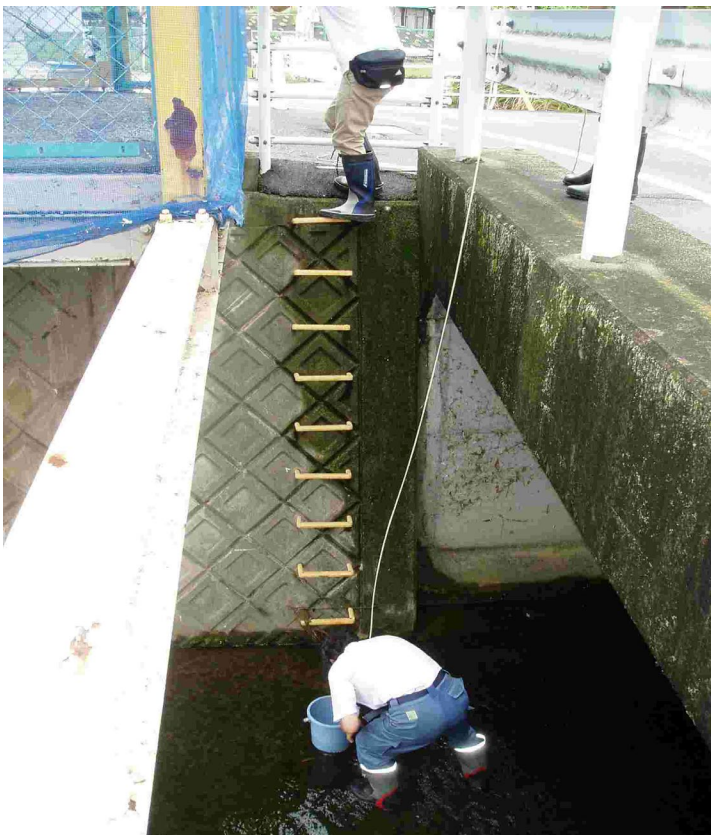
大口川の上流部の用水路(雅農場そば)の河川改修工事完了



大口川の下流部では窒素やリンが減少し、水質が改善



十四川最下流部の豊栄橋で採水作業



北鳩町ごみ置き場下で採水作業、流量はやや多め



富田山城道路沿いの中流部サンシの下流で